せいけん詩集

第四篇

作：近藤せいけん

『君よ故郷に帰れ』
時間は動いてゆく　人生も移りゆく
悲しい時、苦しい時、嬉しい時
君よ故郷を思い出せ　そして帰れ
そこには霊峰大山があり
君が打ち込んだ　青春の一ページ
大山の天狗さまの仲間がいる
君は大きな、大きな　心の宝を
人生の糧を　持っている
歳を経て　思い出す時
君が打ち込み　輝いた
若き日の一ページ　熱き青春
熱き鼓動
大山の天狗さまが浮かぶだろう
そこには　共に汗を流し
励ましあった　心の友をみるだろう
君は大きな、大きな　心の宝を
人生の糧を　持っている
平成21年度厚木市民ミュージカル
「大山の天狗さま」
2009.12.20

「愛　ふるさと」
愛　ふるさと
愛　家人
愛　絆
光の中　なつかしい
風景がある
美しい　山河　里
ここが　私のふるさと
生まれ　育った地
里人の優しさ　暖かさ
今も変わらず
野辺に遊んだ　幼き頃
幼馴染の　顔と声
今も浮かぶ
愛　ふるさと
愛　友
愛　想い
ここが　私のふるさと
懐かしい　心の地
夢の中の君　微笑んで
今も　変わらず
「大山の天狗さま」

「風　ふるさと」

風　ふるさと

風　優しく
風　心地よく
風　美しく

私は微風が好き
川も渡る　風が好き
木々を渡る　風が好き
田園を渡る　風が好き

夏祭り　太鼓の音を
遠く響かせる風が好き

秋になり　黄金色の稲穂を
揺らす　風が好き

冬になり　粉雪をそっと
散らす　風が好き

春になり　さくらの花に
優しく吹く　風が好き

風は　ふるさと
風は　天のお使い

「天　ゆく　飛龍」

高く　高く　大空に昇る飛龍
羽ばたけ　夢を追い
飛べ　飛べ　悠々と自在に
輝け　輝け　光となれ
その姿　神に似て
神々しく
天ゆく　飛龍

水の底に　いる時代
じっと　力をつけろ
人に似て　人生に似て
潜龍を生きろ

淵に上がった　時代
広く　世界を見ろ
人に似て　人生に似て
淵龍を生きろ

天ゆく　飛龍
やがて来る
地に降りる　時に備えよ
人に似て　人生に似て
降龍を生きよ